

ROSE

文化情報誌
ロゼ

2012 WINTER Vol.78

ROSE THEATRE
ART INFORMATION
OF FUJICITY
CULTURE MAGAZINE
ROSE



カルタハカタル

四季刊かるたの小径から

INTERVIEW

レ・アレール

特集 ロゼ・クラシックカフェ

浦久俊彦

EVENT CALENDAR 2012

特集 REPORT

パ・カッセン de ロゼ 2011

THE STAGE SIDE STORY

Flash Back

INFORMATION FROM ROSE THEATRE





その圧倒的な“連弾”スタイルで独自の音楽を奏でる兄弟ピアノデュオ「レ・フレール」
2012年2月26日(日)、ロゼシアターでのコンサートを前に、
兄の斎藤守也さん、弟の斎藤圭土さんに、お話をうかがいました。

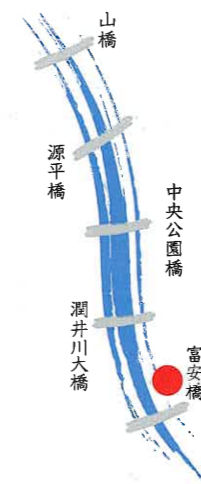
レ・フレール
Les Frères
Piano Duo / Moriya Saito and Keito Saito

Contents

- **カルタハカタル**
潤井川かるたの小径から 1
- INTERVIEW
レ・フレール
空間を感じたような、
そんな音を楽しんでいただきたいです。 2
- 特集 ロゼクラシックカフェVol.4
「ニューイヤークンサート」
瀧久俊彦 5
- EVENT CALENDAR 2012
平成23年度自主事業
情報先取り! 魅力あるイベント満載! 7
- 特集 Report
「バーカッション de ロゼ」 9
- ロゼピアノコンクール2012 11
- ショパンコンクール
「第1回開催を振り返って」
中村史子 12
- Flash Back
■ロゼシアター主催事業
2011年 8~10月 13
- INFORMATION FROM ROSÉ THEATRE
◆改修工事に伴う大ホール貸出し中止について
◆チケット購入方法
◆レストラン「ロゼ」のバイキング
◆プレゼントクイズ
◆休館日のお知らせ
◆編集後記 14



百人一首は、奈良時代から鎌倉初期までの約六百年にわたる和歌の秀作百首を藤原定家が編纂したものです。選出された歌人百人を男女別で見ると、男性七十九人、女性二十一人で、女性が二割強を占めます。現代の文壇で活躍する女性の比率は、おそらくこれよりはるかに高いと思われるが、千年以上も昔に女性がこれほどさかんに文芸に動んでいたというのは、諸外国ではほとんど例がありません。さて今日、私たちは日本語を書き表すのに、中国から伝わった漢字と、それが変化した仮名文字を併用しています。伊勢の活躍していた平安初期には、すでに仮名が独立した文字体系として、和歌をしたためる場合や、女性が筆記する時などに用いられていたようです。漢字と仮名の用法が整えられたことにより、表現は豊かさを増し、この時代の文化、とりわけ女流文学は、大きく花開いたといえます。外来の文化を、アレンジ、進化させ独自の文化として取り入れることは、日本人の得意とするところでしょう。日ごろ何気なく使っている文字にも、こうした日本の知技が生きています。文化の源、文字にあります。



ロゼシアターの東を流れる潤井川。山橋から富安橋までの沿堤は、「潤井川かるたの小径」と名づけられ、百人一首を彫り込んだ石版百枚が、道行く人々を楽しませています。



伊勢
(いせ 872~938)
伊勢守藤原経隆の娘で、名前は父の役職名からこう呼ばれる。三十六歌仙のひとり。

かるたは語る
カルタハカタル

潤井川かるたの小径から

難波湯 短き葎のふいのよも
あはでこの世をすくいてよとや 伊勢

(訳)難波湯に茂る葎の節間ほどの短い時間さえ、会うことも叶わずにこの世を過ごしていけといけといけといけといけといけといけといけといけ



空間を閉じ込めたような、
そんな音を楽しんでいただきたいです。



Keito

圭土／自分は何も考えないようにします。
守也／あと、煮詰まらなくて保留になっている作品も多々あります(笑)。

コンサートで未就学児の入場制限を設けないスタイルについて、また被災地で行われた小学校などでの音楽支援コンサートについてお聞かせください。

圭土／僕たちの原点が、幼稚園や小学校での演奏でした。小さい子どもたちが自分たちの演奏に興味を示してくれる、そういう様子を見て、小さい頃から生の音に触れていただきたいという思いがあり、入場制限を設けていません。

守也／また、自分たち自身7人兄弟という大所帯で、いまも甥っ子姪っ子など常に身近に子どもたちがいることも影響しているかもしれませんね。

圭土／被災地での音楽支援コンサートでは、

兄弟で連弾を始めたきっかけをお聞かせください。
守也／先に弟の圭土がピアノを始めて、その1年後に僕もピアノを始めました。発表会などでは昔から連弾をしていて、日常の中でも圭土が練習している時に僕が隣で邪魔をしたりと、自然な流れの中で兄弟での連弾を始めましたね。あえて何かをやるという意識はなかったです。
圭土／デビューが決まっていたから、自分たちの演奏に「キャトルマン・スタイル」という名前をつけてオリジナルの色を出していこう、ということになりました。
守也／いわゆる連弾という、発表会で先生と生徒さんがやるイメージが強いと思いますが、自分たちの連弾はそのイメージとはまた違ったもので受け止めてもらえるようにという思いで名付けましたね。

新作アルバム「PIANO SPATIAL」/ピアノ・スパンリアルは宇宙飛行士・野口聡二氏の「宇宙と地球でセッションをしたい」との言葉がきっかけになったと伺いました。
圭土／そうですね。本当に今回のアルバムは、野口さんとの出会いがきっかけとなっています。アルバムタイトルの「SPATIAL」には宇宙や空間といった意味があり、今回は「空間」を感じられるような曲作りを強く意識しました。今回もアルバムはスタジオではなくホールで録音をしています。CDの音にも、空間を感じていただければと思います。
守也／僕たちはセカンドアルバムからホール録音をしています。また、すべて二発録りなので、空間を閉じ込めたような、そんな音を楽しんでいただきたいです。聴き所としては、場所を選ばずいつでも聴ける、そんな音楽になっていると思います。
圭土／また、空間を意識する中で音数を気に

しましたね。4つの手がある連弾は、やはりどうしても音が多くなりがちです。そこを敢えて抑えることで空間を保ち、それぞれの音を活かすような曲作りも試みました。音と音の余白になっっていると思います。
守也／アルバム曲の作曲はそれぞれ半分ずつ担当していますが、実際に弾いてみてお互いのパートを入れ替えたりなどはありますね。
圭土／完成したものに対しては、お互いの作品に口出しはしません。
守也／ただ、ここからはアドリブでお願いする、ということはありませんよ。
圭土／セッションから作品が生まれることもありますね。共作の場合などは色々話し合っただけです。
守也／曲作りに行き詰った時は、散歩で気分転換をしています。やはり自然からインスピレーションを受けることが多いですね。



Moriya

現地の子どもたちとのセッションもしました。久しぶりに楽器に触れることができてうれしと言ってくれた事が印象的でした。
守也／この先も被災地での音楽支援コンサートの予定があるのですが、今後も可能な限り続けていきたいと思っています。

＊レ・フレール子どもたちの音楽支援活動

プライベートについて伺います。普段よく聞く音楽ジャンルを教えてください。

守也／一番よく聞くのは、もしかしたらハードロックかもしれません(笑)あとはもちろんクラシックも聞きます。他に好きなものとしては、古い民族音楽ですね。CDも沢山持っていますし、中でもアイリッシュ系とインド系が好きですね。民族楽器も興味でいくつか持っています。

圭土／僕はプギ・ウギです。プギ・ウギ・ピアノが専門なので、やはり一番よく聞きますね。

あとはブルースです。ピアノ以外の楽器ではドラムやジャンベなどを持っています。

最後に、読者の方へメッセージをお願いします。

圭土／静岡でのコンサートは3年ぶり、富士市は初めてなので、今から楽しみです。富士市ならではの雰囲気大切に、熱いコンサートにしたいと思っています。

守也／僕らのコンサートには是非来てください。連弾のピアノのコンサートというものは中々ないものだと思います。また、僕らのことを知ってくださっている皆様も、ライブならではの演出もあるので、是非おこしください。会場でお待ちしています。

ありがとうございました。

Les Frères プロフィール

横須賀市出身の斎藤守也(さいとうもりや・兄)と斎藤圭土(さいとうけいと・弟)の兄弟によるピアノデュオ。兄弟共に15歳よりルクレンブルク国立音楽学校に留学しクラシックピアノを学ぶ。2002年9月3日に「レ・フレール(フランス語で「兄弟」を意味する)」を結成。結成当初は地元のライブハウスをはじめ、各地の幼稚園や小学校を中心としてライブ活動を開始。1台のピアノを2人で自在にダイナミックに操る独自のプレイスタイル「キャトルマン・スタイル」は地元「横須賀」を発信源として瞬く間に話題となる。ジャンルを問わず、あらゆる年齢層を惹き付け、聴く人の魂を揺さぶる熱いオリジナルサウンドは着実に評価を高め、「レ・フレール」という一つの音楽ジャンルを形成しながら世界に向けて発信し続けている。2011年4月13日、アルバム「PIANO SPATIAL」をユニバーサル ミュージックより発表。同年12月7日にはライブDVD「PIANO SPATIAL/DVD」がリリースされる。

http://lesfreres.jp/



《公演情報》 KIRIN presents
レ・フレール3rdアルバム発売記念ライブ
PIANO SPATIAL in FUJI

2012
2.26 SUN
ロゼシアター大ホール
開場16:00 開演17:00

●入場料(全席指定・税込) 均一:5,000円

チケット好評販売中

＊4歳以上有料。3歳以下は大人1名につき1名以上鑑賞可。但しお席が必要な場合は有料。お子様が騒いだり、泣き出したりした場合はロビーに出ていただくなど周囲にご配慮ください。公演に影響が及ぶと判断された際にはご注意させていただいたり、ご退席をお願いする場合がございます。

フランス語で兄弟を意味する「レ・フレール」。その名の通り、斎藤守也と斎藤圭土の兄弟によるピアノデュオ。1台のピアノを2人で自由自在、かつダイナミックに操る「キャトルマン・スタイル」で注目を集め、その実力で観衆を魅了しています。その「進化系」となるツアーコンサート、必見・必聴間違いなし!



写真1 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 ニューイヤーコンサート 写真提供:オーストリア政府観光局/Lammerhuber



写真3 パリのニューイヤー花火(2000年) ©Thierry Nava

の延長で友人同士でという人々も多いようです。ヨーロッパの多くの国で、元旦は休日にはなっているものの、2日からはいつもの生活がはじまります。初詣やおせち料理、新年のあいさつ回りなど、いわゆる「おとそ気分」で過ごすお正月イベント満載の日本からみれば、はるかにあっさりした2日となるのは当然といえるかもしれません。とはいえ、近年では、ドイツを中心にジルベスター(聖シルベスターの日・大みそか)コンサートが開催されるなど、大みそかを中心にしたお祭りモードは年々盛り上がりつつあります。なかでも新年のカウントダウンに合わせた「ニューイヤー花火」(写真3)は、ヨーロッパの主要都市の豪華イベントとなっており、ある都市では日本からわざわざ花火師を呼び寄せているといわれるほど。わたしたち日本人にとっては夏の夜空を彩る花火が、ヨーロッパの人々には「冬の風物詩」となっていることも、おもしろいですね。

浦久 俊彦

■プロフィール 浦久 俊彦

1961年生まれ。パリで作曲、器楽、歴史社会学、哲学、美学などを学ぶ。ヨーロッパを中心に、作曲・執筆活動に加え、フランス・イヨヌ歴史文化財団で企画・プロデュースを担当。音楽だけでなく美術・伝統工芸など、広く芸術・文化全般にわたるプロジェクトを手がける。帰国後、ピアニスト仲道郁代とのプロジェクト「ショパン鍵盤のミステリー」などをはじめ、数々のコンサート企画、ホール・プロデュースなど多彩な活動を展開している。現在、三井住友海上しらかわホール エグゼクティブ・ディレクター。



ROSE Classic Cafe vol.4

浦久 俊彦

ニューイヤーコンサートとヨーロッパの元旦事情

色鮮やかな花が舞台を彩り、華やいた雰囲気なかで、着飾った紳士・淑女がワルツの調べに酔いしれる。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による恒例のニューイヤーコンサートの光景です。ヨハン・シュトラウス一家の作品を中心とするウィーンワルツの祭典ともいべきコンサートで、衛星中継技術の発展とともに、ライブ映像はいまや世界40カ国以上に配信されています。会場には必ず和装の日本女性の姿をみかけるといっていいほど日本のファンにも馴染みのあるコンサートですが、この「ニューイヤーコンサート」はいつからはじまったのでしょうか。その歴史を辿ってみると、「新年」に対する日本とヨーロッパの習慣の違いなども見えてきます。今回は、ニューイヤーコンサートにまつわるあれこれです。

「元旦」ではなく「大みそか」だった？ ニューイヤーコンサート誕生秘話

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の

「ニューイヤーコンサート」(写真1)が誕生したのは、いまから約70年前、1939年12月31日のことです。実は、ニューイヤーコンサートは「元旦」ではなく、「大みそか」に開催されたのはじまりなのです。現在のように1月1日の正午から開催されるようになったのは3回目の1941年から。けれども「大みそか」の伝統はいまま残っていて、ニューイヤーコンサートで演奏される同じプログラムが、12月31日に「ジルベスターコンサート」としても演奏されています。

古き良きウィーンの伝統 クレメンス・クラウス

このニューイヤーコンサートの記念すべき第1回の指揮者が、クレメンス・クラウス(写真2)。20世紀初頭のウィーン楽界を代表する名指揮者です。クラウスは、生粋のウィーンっ子で、母親がウィーン宮廷劇場(のちのウィーン国立劇場)付きのバレリーナだったことから、「私は、生まれるま

えから舞台上に立っていた」と語るなど、生粋の劇場人でもありました。「音楽の都ウィーン」は歴史上数々の音楽家が活躍した舞台となりましたが、第2次世界大戦後、同市出身の指揮者が大成した例は意外に少なく、クラウスは、古き良きウィーンの伝統を懐かしむ多くのファンから「最後のウィーンの巨匠」とも呼ばれ、いまま語り継がれている偉大な存在です。1954年にクラウスが急逝すると、ニューイヤーコンサートは、当時ウィーン・フィルのコンサートマスターでもあったウィリー・ボスコフスキーが引き継ぎ、指揮をしながら演奏する「弾き振り」スタイルと、趣向を凝らした演出で、ウィーンの風物詩として定着していきます。そして、いまや「世界で最もチケットの入手が難しいコンサート」といわれるま

「お正月気分」は日本だけ？ ヨーロッパの元旦事情

あまりにも有名になったウィーンの



写真2
クレメンス・クラウス(1893-1954)

「ニューイヤーコンサート」に類似するような元旦の音楽イベントが、ヨーロッパの他国からあまり聞かれないのはなぜでしょうか。そこには、1月1日よりクリスマスが圧倒的に重要なヨーロッパならではの習慣があるようです。「年の計は元旦にあり」ということばが表すように、日本人にとって「お正月」は特別なもの。けれども、キリスト教の記念日・祭日が主体となっているヨーロッパでは、12月25日の「クリスマス」の盛り上がり比べると、元旦は普通の日という印象です。家族が揃って祝うのは、何といってもクリスマス。元旦は大みそかから



EVENT CALENDAR 2012

3 MARCH

3/7 水曜日 クラシック音楽が紡ぐステキな世界
～大澤徹訓レクチャーコンサートVol.3～

小ホール
開場/18:30 開演/19:00
〈出演〉レクチャー/大澤徹訓
演奏/フジリステン
〈監修〉辻村典枝
●入場料(全席自由) 均一/2,000円 ※未就学児入場不可
チケット発売日 1月6日(金)10:00～
【ロ】Lコード 46052



〔前回公演より〕

3/11 日曜日 ロゼピアノコンクール2012〈予選〉

小ホール
午前/学生の部
午後/一般の部
●入場無料 ※未就学児入場不可
※詳細はロゼシアターホームページをご覧ください。

3/23 金曜日 ロゼピアノコンクール2012〈本選〉

中ホール
午前/学生の部
午後/一般の部
●入場無料 ※未就学児入場不可
※詳細はロゼシアターホームページをご覧ください。

3/28 水曜日 ロゼこどもスプリングコンサート〈協力・企画・音楽監督〉茅原初子

小ホール
1回目(0歳から入場可) 開場/10:30 開演/11:00
2回目(3歳から入場可) 開場/13:30 開演/14:00
●入場料(全席自由) 均一/500円
※3才以上有料。2歳以下は保護者1名につき1名ひざ上鑑賞可。ただし、お席が必要な場合は有料。
チケット発売日 1月24日(火)10:00～
【ロ】Lコード 46053



〔前回公演より〕

※ロゼシアター主催公演のチケット購入方法については14ページをご覧ください。
※表示価格は全て消費税が含まれております。

2 FEBRUARY

2/26 日曜日 KIRIN presents
レ・フレール
3rdアルバム発売記念ライブ
PIANO SPATIAL in FUJI

大ホール
開場/16:00 開演/17:00
入場料(全席指定)
均一/5,000円
※4歳以上有料、3歳以下のお子様は
大人1名につき1名までひざ上鑑賞可。
ただし、お席が必要な場合は有料。
チケット発売中 【ロ】Lコード 45182



2/25 土曜日 新進アーティスト作品展Ⅹ
-Art Generation 2012-

展示室
10:00～18:00(最終日17:00まで)
入場無料

3/4 日曜日

同時開催
Art Generation2011
優秀賞受賞「秦 嘉央理 作品展」
開催10回記念 歴代選出者作品展
※応募用紙受付期間は、
2011年11月20日(日)～2012年2月11日(土)まで。
詳しくはロゼシアターホームページをご覧ください。



前回優秀賞作品
秦 嘉央理「eternity」

3 MARCH

3/3 土曜日 「それいけ!アンパンマン」 ミュージカル
いのちの水を救え!

大ホール
1回目 開場/11:00 開演/11:30
2回目 開場/14:30 開演/15:00
●入場料(全席指定)
前売/2,500円(当日2,700円)
※3歳以上有料。
2歳以下は保護者1名につき1名ひざ上鑑賞可。
ただし、お席が必要な場合は有料。
チケット発売日 1月21日(土)10:00～



©やなせたかし/フレール館・TMS・NTV

3/4 日曜日 ふじ寄席 東西 名人会 桂 歌丸・笑福亭仁鶴

中ホール
開場/13:30 開演/14:00
入場料(全席指定)
1階席/4,500円
2階席/3,500円
※未就学児入場不可
チケット発売中 【ロ】Lコード 45233



1 JANUARY

1/6 金曜日 宮川彬良&アンサンブル・ベガ
ニューイヤーコンサート2012

大ホール 開場/18:30 開演/19:00
●入場料(全席指定) 一般/3,000円 学生/1,000円 ※未就学児入場不可
チケット発売中 【ロ】Lコード 45183
プログラム
♪すみれの花咲く部屋/F・デーレ=宮川彬良
♪愛の挨拶/エルガー
♪ユーモレスク/ドヴォルザーク ほか



©MIKAKO ISHIGURO



ALL (C) OFFICE VEGA

1/26 木曜日 音楽界の貴公子たちVol.4
いちむじん

小ホール
開場/18:30 開演/19:00
入場料(全席指定) 均一/3,000円
※未就学児入場不可
チケット発売中 【ロ】Lコード 45180



2 FEBRUARY

2/12 日曜日 芸術×ドキュメンタリー
ドキュメンタリーシアター・ロゼ

中ホール
①「頑固な夢」〈93分〉 開演10:15
②「アンダーグラウンド・オーケストラ」〈115分〉 開演13:30
③「ピクチャー・オブ・ライト」〈83分〉 開演16:15
※日本語字幕上映
※開演は各開演時間の15分前となります。
入場料(全席自由) 各チケット/1,000円
作品提供:山形国際ドキュメンタリー映画祭
チケット発売日 12月20日(火)10:00～ ※窓口取扱いは12月22日(木)10:00～
【ロ】Lコード 45181



「頑固な夢」



「アンダーグラウンド・オーケストラ」



「ピクチャー・オブ・ライト」



◆今回の「パーカッション de ロゼ」のためにオーディションによって選出されたメンバーで構成されていますが、演奏プログラムについて言うと、前半は聴かせる要素が

◆R・P・A・T・Tは今回の「パーカッション de ロゼ」のためにオーディションによって選出されたメンバーで構成されていますが、演奏プログラムについて言うと、前半は聴かせる要素が後半は聴かせる要素が



◆今回の「パーカッション de ロゼ」の全体コンセプトは？
打楽器だけに限らず、音楽を奏でる楽器という物は本来もっと身近にあつていいと思うんです。打楽器は、特に幼少の頃には身近に感じていたはずなんです。いつの間にか疎遠になってしまつて。それに、打楽器はどの楽器にも負けないくらい無限の可能性があると思うんです。その部分を少しづつでも知ってもらえたら良いと思うし、私自身も打楽器を25年やってきてその答えが出ていないんですね。打楽器はとつきやすいが故に奥の深さがあると思うし、それが魅力として必ず感じるわけで。今回はそれを色々な形で具現化出来ればという事で様々なアプローチを作りました。

◆中高生のためのワークショップ&クリニックは、中学生47名高校生67名が3コースに分かれて行なわれましたが受講者の反応は？

休日にワークショップのためだけに集うということ全体のモチベーションは異様に高かったですね。県東部を中心に中部・西部から参加してくれたんですけど、中学校でパーカッションをやっている子供たちはまだまだ大勢いるので、全員に分け隔てなくやってあげたいと思うぐらいに二人一人の反応が素晴らしいかったです。もちろん参加してくれた皆さんも何らかの手ごたえはあったと思いますし、我々としてはこれがこの地域に対しての活動の新たなスタートにできればと思えました。

パーカッション de ロゼ

楽器の
魅力
シリーズ



写真協力:タイムデザイン

“R-P-A-T-T(オールパット)”は十鳥勉プロデュースのもと、杉浦邦弘、山本品子を中心にオーディションにより選抜された静岡県ゆかりの新進気鋭の若きメンバー6名が本公演の為に集い組織されたパーカッションユニット。

「R-P-A-T-TパーカッションLIVE」

9月24日(土) 開場18:30 開演19:00
9月25日(日) 開場13:30 開演14:00

「中高生のためのワークショップ&クリニック」

9月25日(日) 10:00~12:30



「R-P-A-T-TパーカッションLIVE」 PROGRAM

<第1部>

1. five o'clock in F./杉浦邦弘
2. ズールー・ウェルカムー南アフリカの印象/ジークフリート・フィンク
3. 熊蜂の飛行/リムスキー=コルサコフ/マックス・スレス
4. コメントより第1楽章/ラリー・スナイダー
5. トリオ・バー・ウンより第1楽章/ネボイシャ・ヨハンシフコヴィッチ
6. アフリカンブルース/ロッゲンカンブ
7. Next Step!!/平松浩一郎

<第2部>

1. Floresta/西原大樹
 2. 小フーガ ト短調 BWV578/ヨハン・セバスチャン・バッハ
 3. ボレロ/モーリス・ラヴェル/杉浦邦弘
- ENC. ふるさと/岡野貞一

<R-P-A-T-Tメンバー>
十鳥 勉
杉浦邦弘
山本品子
望月けい子
宮城島梨恵子
和田香織
青島未和
初鹿野 翔
平松浩一郎

アドバイザー/石川ますみ
サポートメンバー/十鳥ゆかり



強かったという印象ですが？

前半は打楽器の原点から生い立ちも含めて、楽器になつていく過程、楽器として認知されていく過程、音を奏するという原点から色々な器材や資材を通して音楽を奏でる楽器に成っていくという過程をプログラムの中で感じてもらえたいなど。だから当然見せる要素は多々織り込んだし、構成的には原点から現在までという視点で。後半は確かに聴かせる部分に重点を置いて、曲の新旧の時代を問わずに演奏しました。

◆プログラムの中に観客と一緒にボディ・パーカッションをやるといったコーナーがありましたか？

数分間という短い時間だったんですが、打楽器の原点である部分をお客様と共有することによって、受身で音楽を吸収するだけでなく音を発する側に立った時に解る音楽のシンプルな構造をもつて一度認識してもらいたかったんです。それによって、見方・聞き方・楽しみ方が変わってくるかなと。

◆終わってみての感想は？

貴重な経験をしたと思います。これからも精進して更なる上を目指したいですね。終演後にロビーでお客様をお見送りしたんですが、ほとんどの皆様から笑顔とポジティブなご意見をいただきました。我々演奏者も含めて、ステージサイドの人間の情熱が、来ていただいたお客様様の心に届いたんじゃないかなと思いますね。

◆ありがとうございました。



R-P-A-T-Tプロデューサー
十鳥 勉

<PROFILE>

洗足学園音楽大学打楽器科を最優秀の成績で卒業。在学中より「ミラクル・パーカッションアンサンブル」団員となり数多くの海外公演に参加するとともに、万国博のイベント、NHK-TV、NHK-FMなどにも出演。またNHK交響楽団をはじめとする在京名門オーケストラ、静岡交響楽団等の管弦楽団に客員奏者として参加。「T.J.P.P.A.L」主宰。'06に創設以来、全国各地で年間100以上のステージに出演するまでに育て上げた手腕が評価され、その活動がテレビ、ラジオ等のメディアに取り上げられ好評を博す。吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテスト等の各種審査員を歴任。



第13回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA

13th International Chopin Piano Competition in ASIA

2011年10月23日(日) ロゼシアター中ホール

www.chopin-asia.com

深呼吸する息づかい、ドレスの衣擦れの音が会場に響く…。コンクールならではの雰囲気の中、“ピアノの詩人”フレデリック・ショパンの名を冠したコンクールの静岡地区大会が行われた。コンクールとはいえ、その演奏テクニックは素晴らしく、ショパンを愛する人たち垂涎の公演となった。

「ショパン国際ピアノコンクール」は5年に一度、ショパンの故郷ポーランドのワルシャワで開催され、ピアニストを目指す者にとって登竜門とされている。過去優秀者には、日本でも人気のスタニスラフ・ブーニン(第11回)、ユンディ・リ(第14回)が、また中村絃子(第7回)、内田光子(第8回)、小山実稚恵(第11回)、横山幸雄(第12回)も日本人アーティストとして入賞を果たしている。

優れた演奏家の発掘、育成とともに、そこから派生する様々な活動がポーランドとアジア各国の音楽文化の発展に貢献するようにと“in ASIA”として日本でも各地で開催されている。この度、組織委員会の地元委員の一人としてご協力を仰いだ中村史子氏に、このコンクールを振り返っていただいた。

張り詰める空気、静かなホワイエ……



『第13回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA』を終えて

10月23日、ロゼシアター中ホールにおいて静岡県では初めて、表記のコンクールが開催されました。(全国37会場で開催)今年の参加者の皆様は、3月11日の東日本大震災の影響を少なからず受け、復興を願う気持ちで参加されたことと思います。

小学一年生から大人までの出場者の一生懸命な演奏は、胸を打つ感動的なものでした。目標を持って真剣に取り組み研鑽を積むことは、とても大切なことだと思います。

ショパンは今年で生誕201年になりますが、いまだに私達の心を豊かにし、幸せを与えてくれる名曲をたくさん残しています。以前、ショパン弾きで有名なピアニスト、ダン・タイソンのコンサートで奏でられるショパンの音楽が、ステージの上で豊かな響きとなり、まるで天使が舞っているかのような想いになった記憶があります。豊かな創造力と高度な演奏技術が必要とされるショパンの名曲また他の課題曲もたくさん聴くことができ、幸せな一日でした。音楽の力、子どもたちの力の素晴らしさをつくづく感じました。

この貴重な経験を大切に、これからも自分の足で、独創的に歩んでいかれることを願い、今後もまたロゼシアターでこのコンクールが継続されますよう祈念しております。

中村 史子

プロフィール

東京藝術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。東邦音楽大学講師を務める。1976年より富士市在住。室内楽、伴奏などで多くのコンサートに出演。現在、富士常葉大学、静岡県立沼津高等学校芸術科各講師。静岡県学生音楽コンクール審査員。静岡県演奏家協会理事。富士クラシック協会会長。(財)富士市文化振興財団評議員。

ロゼピアノコンクール2012

このコンクールは、ピアノを勉強している生徒さんから一般の方まで幅広い層の方々に、日頃の研鑽の成果を披露していただく場です。結果にとらわれず、お互いに刺激しあい励ましあってピアノの演奏を向上していくことを目的とします。

開催日時

予選：2012年3月11日(日)
午前/学生の部 午後/一般の部

本選・表彰式：2012年3月23日(金)

会場

予選：ロゼシアター小ホール
本選：ロゼシアター中ホール

審査員 ※審査員は変更になる場合がございます。

ミハエル・クリスト(ウィーン国立音楽大学教授)
アレクサンダー・セメツキー(常葉学園短期大学教授)
今井 顕(国立音楽大学大学院教授)
上野久子(桐朋学園大学教授)
関根有子(東京音楽大学教授)
斎藤雅広(ピアニスト)
佐藤 俊(東京芸術大学講師)
木村 徹(桐朋学園大学講師)

部門・参加資格

学生の部 [A] 小学校4年生～高校3年生
学生の部 [B] 中学校1年生～高校3年生(音高生は[B]のみ)
一般の部 [A] 前年度高校卒業以上
一般の部 [B] 前年度高校卒業以上

参加料 ※申し込み後いかなる場合でも参加料の返却はいたしません。

学生の部 [A] 10,000円 学生の部 [B] 13,000円
一般の部 [A] 15,000円 一般の部 [B] 15,000円
●本選出場者(当日受付)
学生の部 [A] [B] 3,000円 一般の部 [A] [B] 5,000円

申込み方法

参加料を下記口座に振り込み、申込用紙に必要事項を記入し、期間内にお送りください。封筒表に赤字で「ロゼピアノコンクール事務局」宛と記入してください。申込者には3月5日～9日までに参加証及び詳細を送付いたします。申込用紙は、ロゼシアター館内・市内楽器ショップ等にごあります。また、ロゼシアターホームページからダウンロードもできます。

振込口座

静岡銀行富士支店 普通預金 No.0581460
ロゼピアノコンクール事務局

申込期間

2012年2月13日(月)～2月29日(水) ※事務局必着のこと

申込み・問い合わせ先

〒416-0953 静岡県富士市蓼原町1750番地
ロゼシアター『ロゼピアノコンクール事務局』宛
TEL.0545-60-2510 FAX.0545-60-2505

学生の部

A 小学校4年生～高校3年生

下記の、a) b) 計2曲を演奏する

予選

a) バッハ
インヴェンション(小学生のみ)
シンフォニア
フランス組曲よりジーク
平均律クラヴィーア曲集 I・II よりフーガ
※以上より任意の1曲
b) エチュード
クラマール・ビューロー
ツェルニー50番・クレメンティ
モシュコフスキー op.72
※以上より任意の1曲

本選

自由曲 4分～6分以内

発表

学生の部審査終了後、会場に掲示。ロゼシアターホームページに掲載。翌日の静岡新聞・富士ニュースに掲載。希望者にはFAX送信。本選出場者には、詳細を郵送で通知いたします。

表彰 [A] [B] 部門別に表彰

第1位 賞状・賞品 第2位 賞状・賞品 第3位 賞状・賞品 協賛者からの奨励賞

※音高生は[B]に参加してください。※演奏は予選・本選とも暗譜、繰り返しなしとします。※予選における演奏は途中でカットすることがあります。※審査は予選・本選とも公開です。

一般の部

A 前年度高校卒業以上

予選
自由曲 5分～11分以内

本選

同上の曲(予選で演奏した曲)

発表

一般の部審査終了後、会場に掲示。その他学生の部に準ずる。

表彰

[A] 部門 第1位 賞状・副賞5万円 第2位 賞状・副賞3万円 第3位 賞状・副賞2万円
[B] 部門 第1位 賞状・副賞10万円 第2位 賞状・副賞5万円 第3位 賞状・副賞3万円
協賛者からの奨励賞

※演奏は予選・本選とも暗譜、繰り返しなしとします。※予選における演奏は途中でカットすることがあります。※審査は予選・本選とも公開です。

B 中学校1年生～高校3年生

下記の、a) b) 計2曲を演奏する

予選

a) バッハ
平均律クラヴィーア曲集 I・II よりフーガ
b) エチュード
モシュコフスキー op.72
ショパン op.10, op.25
(op.10-6, 25-7は除く)
※以上より任意の1曲

本選

自由曲 5分～10分以内

B 前年度高校卒業以上

下記の、a) b) 計2曲を演奏する
(合わせて8分以内)

予選

a) バッハ
平均律クラヴィーア曲集 I・II より
任意のプレリュード・フーガ
b) エチュード
ショパン op.10, op.25より
(op.10-6, 25-7は除く)
任意の1曲

本選

自由曲 7分～13分以内

主催/ロゼピアノコンクール実行委員会 後援/財団法人富士市文化振興財団
協賛/富士市教育委員会、静岡新聞社・SBS静岡放送、富士ニュース社、
ヤマハ株式会社名古屋支店、すみやグッディ株式会社、タンザワ楽器店、
ピアノショップ沼津

富士市文化会館 ロゼシアター「改修工事」に伴う大ホール貸出し中止についてのご案内



このたび、大ホールの「一層の充実を図る」ため、舞台設備関連（舞台機構・照明設備・音響設備）等の改修工事をいたします。工事期間中は、皆様方大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

工事期間：平成24年4月から平成24年7月末（予定）

- ◆詳しいスケジュールが決定次第ご案内いたします。
- ◆改修工事期間中、大ホールはご利用できません。

工事内容：舞台部門（機構・照明・音響）ほか

なお、この期間中の大ホールのご利用申込みは、お受けできませんのでご承知くださいますようお願い申し上げます。



ロゼシアター主催公演のチケット購入方法

- 10月より窓口取扱い開始時間が、発売初日のみ10時からとなっております。(通常9時～20時) ※webは従来通り10時からです。
- インターネットで購入 (24時間対応)
ロゼシアターのホームページまたはモバイルサイトからご予約いただけます。
ホームページからのご予約は、お座席選択が可能な公演があります。
モバイルサイトからのご予約は、お座席は選択できません。
ホームページ <http://rose-theatre.jp>
モバイルサイト http://rose-theatre.jp/mobile/top_mo.htm
- 現金のお支払いとチケットのお引取りについて
代金のお支払いは、2種類あります。お引取り方法は、選択されたお支払い方法によって異なります。
◆クレジット・カードお支払い：窓口またはセブン・イレブン店頭にてお引取り
◆セブン・イレブンお支払い：セブン・イレブン店頭にてお引取り
- ロゼシアターで直接購入 (チケット取扱時間：休館日以外の9時～20時。ただし発売初日は10時～20時) 会館1階エレベーター横の会館事務所にて、現金でご購入。
- プレイガイドで購入
ローソンチケット TEL.0570-084-004 (各公演指定のLコードが必要です)
※公演によっては「チケットぴあ」でのお取扱いもあります。※お電話でのご購入はこちらをご利用下さい。
※お問合せは9時～22時となります。お問合せ先 TEL.0545-60-2500

ロゼフレンドシップのご案内

ロゼシアター主催公演のチケットをご購入・ご予約の際は「ロゼフレンドシップ」への登録が必要です。

ロゼシアターのホームページや、窓口から登録いただけます。事前に登録していただきますと、購入手続きがスムーズに行えます。ご理解とご協力の程お願いいたします。

公演情報のご案内をお届けします！

ロゼシアター主催公演情報を郵送・電子メールでご案内いたします。

チケット予約が簡単・便利です!!

●インターネットの場合 (お客様のメールアドレスが必要です)
ロゼシアターホームページから予約・購入ができます。

24時間いつでも予約ができ、クレジットカードでお支払いができるほか、セブンイレブン店頭にてお支払い・チケットの受け取りができます。

●窓口の場合

チケットを購入する際に、ロゼフレンドシップの登録IDまたは名前と電話番号をお申し出いただくと、簡単に購入手続きができます。



プレゼントクイズ

平成24年2月26日開催
「レ・フレール 3rdアルバム発売記念ライブ」
レ・フレール独自のプレイスタイルと言えば
「○○○○○スタイル」

プレゼント1 「レ・フレール 3rdアルバム発売記念ライブ」
平成24年2月26日開催

プレゼント2 レストラン「ロゼ」御招待券 2組4名様

【応募方法】官製はがき・私製はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、クイズの答え、希望するプレゼント名、本誌に対するご意見・ご感想をご記入のうえ、郵送にてお申し込みください。(平成24年2月15日必着)
なお、当選者はプレゼントの発送をもって発表にかえさせていただきます。

<郵送先>〒416-0953 富士市琴原町1750番地
ロゼシアター「情報誌ロゼ第78号」プレゼント係

※応募は一人様一通までとさせていただきます。
同一氏名で二通以上応募の場合は、全て無効とさせていただきます。

レストランロゼのバイキング

| 昼 lunch | 夜 dinner |
|-------------------|-------------------|
| [60分] 11:00～14:30 | [70分] 17:00～21:00 |
| 【料金】大人 1,575円 | 【料金】大人 2,100円 |
| 小学生 1,050円 | 小学生 1,050円 |
| 幼児 525円 | 幼児 525円 |

※ロゼシアター休館日及び月曜日は休店日となります。

<お問合せ>

レストランロゼ

(ホテルグランド富士直営)
ロゼシアター2階

●お電話でのご予約も承ります。

TEL.0545-60-2727



編集後記
本や音楽、映画やドラマ。日常には沢山の文化芸術が溢れています。さてその中から皆さんはどの様に自分の興味・関心にあったものを選んでいきますか？それとそれの作品自体もさることながら、今日ではその入手方法も多岐に渡っています。一見、選ぶ楽しみにも感じますが、選択肢が多すぎたからか、案外自分で興味の範囲を限定してしまっていることに気がつくかもしれません。時には今まで興味のなかったもの、友人の薦めや本屋のポップなどに釣られてみて、新しい「興味」を開拓してみるのも、良いかもしれません。(W)

ロゼシアター休館日のお知らせ 12/28日(水)午後～1/3日(火)・16日(月)17日(火) 2/13日(月)～16日(木) 3/26日(日)

ロゼシアターホームページで情報を!! <http://rose-theatre.jp> ◆公演情報 ◆施設の空き状況 ◆交通情報など



2011年8月▶10月

ロゼシアター主催(共催)事業を
お客様のアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。

ロゼこどもコンサート

8月3日(水) 中ホール

- こどもと気兼ねなく楽しめました。こども達にとってもいろいろな楽器や音楽を知れるいい機会になりました。
- こどもが思ったより楽しんでいて、連れてきて良かったです。
- こどももとても興味を持ち、本物の楽器との出会いに目を輝かせていました。



情熱のキューバ

8月5日(金) 大ホール

- 迫力満点でしたまさに情熱の音楽!(60代男性)
- ブエナビスタはDVDで知っていたのですが、生のサウンドが聞けて感動しました。(20代女性)
- 踊りたくなるくらい、楽しかった。(60代女性)



稲川淳二の怪談ナイト 2011

9月2日(金) 中ホール

- 笑いを混ぜてお話いただきましたが、家に帰って思い出すと怖いので、きつと。(40代男性)
- 楽しく怖かったです!(20代女性)
- 笑えて怖くて最高に楽しめました。(40代男性)
- とってもこわくて面白かった。また来たい!(中学生男子)



東儀秀樹×古澤巖 全国ツアー-2011

9月18日(日) 大ホール

- 感動のひと時。心が洗われるようでした。(60代女性)
- 音色に聴かせる大人の色気満点のコンサートに大満足しました。(50代女性)
- 久しぶりに家内と二人でコンサートに来させてくださいました。東儀さんと古澤さんの絶妙の語りと音色を通して日本人として大切なものを何からか感得させていただきました。(50代男性)



ハッピー・タンゴ・アワー!

9月30日(金) 中ホール

- それぞれの個性が光りました。とても贅沢な出演者です。(30代男性)
- 5人の息が本当に合っていて、素敵な時間を過ごせました。(高校生女子)
- タンゴを初めて生で聞きましたが、もっともっとタンゴが好きになりました。鳥肌立ちました。(20代女性)



エレジー 父の夢は舞う

10月20日(木) 中ホール

- 初めて観劇したが、最後まで引き込まれました。(70代男性)
- 物語の中にすい込まれてきました。またこういう芝居を見たいです。(40代女性)
- 見ごたえがあり、色々と考えさせられるテーマでした。(50代女性)



佐渡裕指揮 ベルリン・ドイツ交響楽団

10月24日(月) 大ホール

- とても美しい演奏が聴けて、とても嬉しいです。(中学生女子)
- 佐渡さんとベルリン交響楽団の息があっただけでとても一体感があり、迫力のある演奏でした。(60代女性)
- オーケストラの醍醐味を満喫いたしました。(70代男性)



能・狂言鑑賞会 創作能「赫夜」狂言「磁石」

10月29日(土) 大ホール

- 日本人でありながらこの様な文化に接することがなく、大変勉強になり、良い経験でした。(60代男性)
- 初めて能・狂言を見ました。実際に演じている様子を見ると、知らなかった世界が少し身近に感じました。(30代女性)
- 舞い姿の美しさ。眼福でした。(60代女性)

